

かわさき区の宝物シート

宝物No.
3-1

みょうおんじ・せんでんにくんどくひ 妙遠寺・泉田二君功德碑

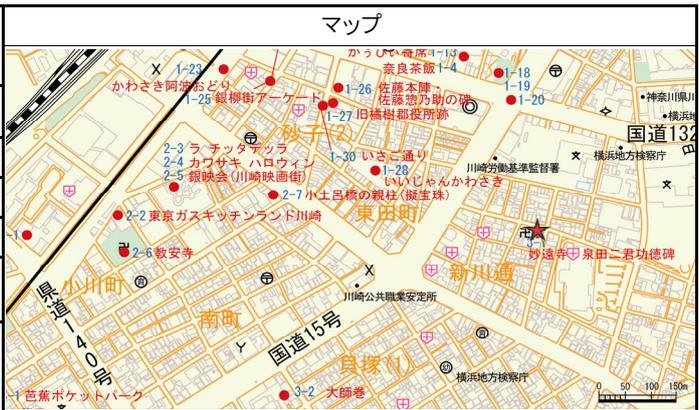
エリア	中央地区	シーズン	通年
	宮前・貝塚	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区宮前町6-5
問い合わせ	妙遠寺
TEL	044-222-7162
FAX	044-211-7164
E-mail	kc220395-5831@tbr.t-com.ne.jp
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分



基礎情報

- 正式名称は日蓮宗長継山妙遠寺。本尊は髻曼荼羅（ひげまんだら）。小泉次大夫の開基で日純上人の創建。第二次大戦後、区画整理のため昭和27年(1952)に砂子から現在地に移転した。
- 境内には、二ヶ領（稲毛・川崎）用水を完成させた小泉次大夫と川崎中興の祖といわれる田中休愚の偉業を讃える「泉田二君功德碑」や日純上人の供養塔、次大夫夫妻の逆修塔、次大夫の右腕として活躍した石川吉久の墓がある。

由来・エピソード

- 寺を開基した小泉次大夫は、今から約400年前に徳川家康の命によって多摩川の治水奉行として、多摩川兩岸に「二ヶ領用水」「六郷用水」の2つの農業用水路を開削した人物。度重なる大洪水の影響で荒廃する沿川の村々の惨状に胸を痛めた次大夫は、家康に農業用水の開削と新田開発を進言した。工事は慶長2年(1597)から始まり、現在の中原区に工事の指揮監督の拠点となる「小泉陣屋（後に小杉陣屋）」が設けられた。その際、工事の陣頭指揮をとる次大夫が、用水開削成就を祈念し、陣屋の裏手にあった廃寺を再興して名付けた「長継山妙泉寺」が妙遠寺の前身である。そして、安房国（千葉県）の日蓮宗本山・妙本寺から住職として招かれた日純上人が、川崎宿の中心地・砂子に妙泉寺の本堂を移し、新たに妙遠寺を創建した。参道のある大きな寺で、元和6年(1620)に代官職を譲った次大夫は、妙遠寺にて隠居生活を送った後、元和9年(1623)、川崎宿が宿駅制定されたその年の12月、85歳で生涯を終えた。逆修塔とは「逆（あらかじ）め戒名をつける・冥福を修める」という意味で、次大夫夫妻の生前の元和5年(1619)に建立された墓である。
- 「泉田二君功德碑」は、小泉次大夫、そして川崎宿の財政を救うとともに二ヶ領用水の本格的な大改修や多摩川の築堤を成し遂げた田中休愚の二人の偉業を讃え、苗字から1字ずつをとって、明治22年(1889)に建立された。宮内省の元役人・池田忠政が荒れ果てた次大夫の墓石を見て「水恩の碑」建立の発起人となった。碑の額は当時の内閣総理大臣・黒田清隆の筆によるものである。また、二ヶ領・六郷用水開削工事の際に、次大夫が故郷の駿河国富士郡小泉郷（現・富士宮市）から呼び寄せ、事業完遂に大きく貢献した土木技術者・石川駿河守吉久夫妻の墓もおかれている。

補足・その他

- 沿川60箇村の耕地に用水を供給し、300年以上の長きにわたり農業・生活用水として人々を潤した二ヶ領用水は、上河原堰・宿河原堰（多摩区）の取水口から多摩川の水を取り込み、久地円筒分水樋（高津区）で4本の支堀に分かれていた。その支堀の一つ、川崎堀が鹿島田（幸区）で分岐したのが大師堀と町田堀（天飛川）で、それぞれ大師河原方面、渡田方面の水田を潤し、さらに近代以降の沿岸部の工業地帯の発展を支えた、現在の川崎区にとってかけがえのない命の水であった。二堀とも現在は全く姿を消してしまっているが、大師堀は、若宮八幡宮境内の九橋の一つの欄干や平間寺の鶴の池、大師公園のせせらぎ水路、大藤橋（大師堀から分流する観音川に架かっていた橋）の親柱などにその名残をとどめている。

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (31-1)小泉次大夫
- (31-2)田中休愚